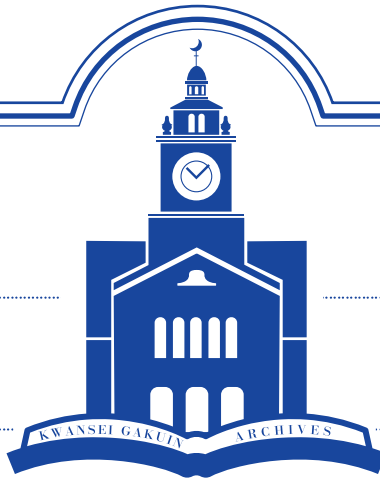


Kwansei
Archives



Gakuin
Lectures

第61回

関西学院史研究会

知られざる戦時下の演劇運動

昭和の戦争の時代、多くの文化が抑圧される中で、活況を呈した文化領域もあった。その一つが職場や地方農村の文化運動であり、その中心は演劇運動であった。戦時下にはこの運動を推進するため、大政翼賛会文化に素人演劇研究委員会（後に勤労芸能研究会）が組織され、また多くの演劇人が素人演劇論を論じ、脚本を発表した。このような戦時下の演劇運動は、現在ではほとんど忘れ去られているが、興味深いのは、そこで関西学院の卒業生・空井健二が重要な役割を果たしていたことである。本講演では、この空井の活動に光を当てることで、広い意味での関西学院史についても考えてみたい。

講師

高岡裕之氏 たかおか ひろゆき

関西学院大学文学部文化歴史学科教授。1962年奈良県生まれ。大阪市立大学卒業、同大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。著書に『総力戦体制と「福祉国家」：戦時期日本の「社会改革」構想（岩波書店、2011年、増補版2024年）、共著書に『岩波講座日本歴史18 近現代4』（岩波書店、2015年）、『幻の東京オリンピックとその時代：戦時期のスポーツ・都市・身体』（青弓社、2009年）、『総力戦と音楽文化：音と声の戦争』（青弓社、2008年）などがある。

日時

2026.6.26

金

13:30-15:00

場所

関西学院大学図書館ホール（西宮上ヶ原キャンパス）

無料・申込不要・一般参加歓迎

主催：関西学院 大学博物館 学院史編纂室

0798-54-6022